



山口育児院だより

編集・発行 / 社会福祉法人 山口育児院

2015.11.第33号

〒753-0082 山口市水の上町5-27 Tel 083-922-1027 Fax 083-922-2389

e-mail y-ikuji@estate.ocn.ne.jp URL http://y-ikuji.sakura.ne.jp/

施設見学に御来院下さった皆様方

この秋、山口育児院には多くの方々が施設見学に来て下さっています。

例年は施設見学の日は殆ど無いのですが、昨年ある小学校のPTA会の皆さんが来て下さいました。そして今年も十月と十一月に五組の団体の皆様が施設見学を希望して下さいました。

施設見学がある前晚には子ども達に「ちゃんと部屋を綺麗に片付けておけよ!」「朝の掃除もきちんとしろよ!」といったも以上に声掛けをします。そして翌日お客様が来られたら、「ありのままの様子を見て頂くと思って、特別に掃除することなくいつも通りにしています。汚くてお恥ずかしいです」とお伝えしています(笑)。

外からお客様が来られると、その度に院内が綺麗になっていきます。これもお客様に来て頂く功德でしょう(笑)。

このような機会を通して、皆様に児童福祉についての理解を深めて頂けると嬉しく思います。

施設見学に来られた皆様と今後の予定

- 10月5日 美祢市民生委員の皆様
- 10月15日 すこやかホームとその関係機関の皆様
- 10月29日 福岡県筑後地区児童養護施設研修会の皆様
- 11月11日 山陽小野田市民生委員の皆様
- 11月27日 周南市民生委員の皆様



歩々清風

今年も九月二十七日が中秋の名月、翌二十八日がスーパームーンでした。皆さん、ご覧になりましたか?

秋の夜長にゆっくりと月を観賞する。現代では一種のイベントとして観ることはあっても、風流を楽しむということはあまり無いのではないのでしょうか。

松尾芭蕉に月を詠んだ有名な句があります。

名月や

池をめぐりて

夜もすがら

時が経つのを忘れ、我をも忘れて月と一つになる。そこまでいって初めて名月を味わうと言えるでしょう。

心の余裕がないと、月を楽しむことでさえ難しくなってしまう。忙しい、忙しいと言って心を亡くすことが無いように、落ち着いた生活をしたいです。(T)

御案内

育児院では、地域の方々に施設を利用していただく為に、いろいろなサービスを実施しています。

トワイライトサービス

仕事の関係で帰宅が夜間になる方、お子さんの下校時より仕事終了時迄お預かり致します。

短期入所サービス

病気、事故、出産等でお子さんの養育が難しくなった時等、短期間お預かり致します。

当院をご利用ご希望の方はお気軽にご連絡下さい。又ボランティアの受け入れもしております。

福祉に関心のある方、是非一度ご来院下さい。



近況報告

告く平凡のありがたさ



夏の暑さも何処へやら。すっかり秋らしくなり、朝晩は寒さも感じるようになってきました。これから本格的に冬の到来です。

さて、今年の夏も育児院では例年通り様々な行事がありました。夏休みには、佐賀県臨済宗青年僧の会の皆さんの慰問、海水浴、防災訓練、地蔵まつり等、二学期に入ってから各学校の体育祭や運動会。十月には院内球技大会等々お陰様で子ども達は毎日元気いっぱい生活しています。

夏の各種恒例行事。その時の子ども達の様子や行事を企画する職員によって内容に多少の変化はありますが、行事としては基本的に毎年同じものを繰り返しています。「いつも同じで子ども達も飽きてこないかな」という心配はありますが、予め分かっているほうが子ども達に取り組みやすさがあるようにも思います。実際、年によっては初めて参加する子どもや職員がいますが、先輩の子ども達に引張ってもらい、問題なく過ごせて

いるようです。

この「同じことの繰り返し」は、取りようによってはマンネリ化して工夫が無いように思われるかもしれませんが、しかし、この「繰り返し」は言い方を換えれば「継続」とも言えます。古来より「継続は力なり」と言うように、継続すること自体に意味があるということをお忘れではありません。一つのことを長く続けるには、必ず工夫が必要です。工夫も無しにただ同じことを繰り返していると、長く続けることはできません。その時代に合わせて内容を工夫していくことによって、「継続」が可能になるのです。

山口育児院は今年で創立百十一年になりました。先人の努力のお蔭ではありますが、この育児院をこれからも続けていくためには、今の我々が工夫し努力していかなくてはなりません。それは、見た目には大きな変化はないかもしれませんが、ただ単に同じことを漫然と繰り返しているだけに見え

ないかもしれませんが。しかし長く続いているものには目に見えない大変な苦労と工夫が必ずあります。目に見えないため他からは評価されないかもしれませんが、そのことに自信と誇りを持って良いと思います。

劇薬が必要な時もあるかは申しませんが、副作用も大きくなるものです。平凡な生活を日々粛々と続けていくことは、子ども達の健やかな成長と安心安全な生活には欠かせないことではないでしょうか。

今日も育児院には子ども達の元気な笑い声、泣き声、喧嘩の音が響いています。





山口育児院安全委員会発足！

近年、児童養護施設内での暴力問題は深刻化しており、その対策が重要な課題となっております。その対策方法はいろいろあるでしょうが、その中で、山口育児院では安全委員会方式を導入することにしました。導入を決するまでにはいろいろと紆余曲折がありましたが、悩み迷っているだけでは先に進めません。子ども達を守るた



めに行動に移さなければなりません。外部の多くの方々の意見を聞きながら、施設内で協議をし、今年四月以降、立ち上げの為の研修会を重ねてきました。そして去る九月二十四日、全児童職員、そして安全委員会委員全員が一同に会し、山口育児院安全委員会立ち上げ集会を挙行いたしました。



集会では、児童代表として高校二年の男児と高校三年の女児がそれぞれ力強く決意表明を行いました。二人とも堂々たる決意表明をしてくれました。(下記参照)しかし、安全委員会があれば暴力が無くなるかと言うとそうではありません。どのような方法も、それを正しく使っていかなければ意味がありません。男児の決意表明にもありますが、一人ひとりの強い心、自覚と努力が必要不可欠です。

環境を与えられても、かえって不安を抱く子もいます。言葉だけではなく、「安心していいのだ」ということを理屈抜きに体験させてあげることが大切です。安全委員会とはその為の方法・手段の一つだと思えます。

・高一男児決意表明
僕はこの育児院で生活をしていた中で、人に嫌な思いをさせてしまったことがあります。その一つに暴力があります。暴力が生み出すのは平和などではなく、人を傷つけるだけです。暴力をなくす唯一の方法は、自分の強い心だと思います。今日を機に、育児院からいじめや暴力をなくしていきます。

・高三女児決意表明

私は約五年、この施設で暮らしてきました。この五年間暴力などの問題が無かったと言うことができれば良かったのですが、私も何回かそのような問題を耳にすることがありました。暴力は何があるうといけないことです。なぜ暴力などの問題が起こってしまったのか、その原因を考え、同じことが二度と繰り返されないような環境を作っていきたいなと思っております。私はもうすぐ卒業してしましますが、育児院の皆が安心して仲良く生活できるようにしていきたいと思えます。



米作り体験 ～「当たり前」の尊さ～

今年五月、阿東町の方から子ども達に田植え体験の御招待を頂きました。田植えは皆初めての経験です。「蛇が出るかもしれないぞ！」と最初に脅かされていましたが、子ども達は逞しいもので、そんなことはお構いなしでどんどん田に入っていきます。おそらく蛇のことは忘れていたのだろうと思いますが・・・。

しかし、最初は調子が良かったものの、そのうちすぐに腰が痛くなってきました。中腰で長時間植え続けるのはとても辛いです。普段当たり前のように食べているお米が、こんなにも大変な思いをして作られていたのだということに改めて気付かされました。もちろん今は作業のほとんどが機械で行われており、今回のように手作業で行うことはほとんどないでしょうが、それでもお米一粒を作ることは大変さ、難しさに驚きです。日本はかつてお米で税を集めていたという、世界に例を見ない珍

い国です。それだけにお米を大切にしている気持ちは強いものがあります。

そして季節は秋。いよいよ稲刈りです。半年前に自分たちが植えた稲はどうなっているでしょうか。楽しみに行ってみると、見事に育っていました！黄金色に輝く稲穂を見るだけで大感激です。早速皆で稲を刈り取りました。自分たちが作った新米を食べるのが待ち遠しいです。



我々は普段当たり前前のように食事をしていきます。飽食の時代と言われるように、さほど苦勞をしなくても十分にお腹を満たすことができている。しかし、大切なことを忘れてはいないでしょうか。食事に感謝することを書いた、「食事の五つの誓い」というのがあるので御紹介します。



五つ 自分が日々の行いを反省してこの食事を頂きます。
四つ 欲張ったり残したりしない
三つ 身体と心の健康のためにこの食事を頂きます。
二つ 欲張ったり残したりしない
一つ 全てのものに感謝してこの食事を頂きます。

五つ みんなが幸せになるためにこの食事を頂きます。
四つ 身体と心の健康のためにこの食事を頂きます。
三つ 欲張ったり残したりしない
二つ 自分が日々の行いを反省してこの食事を頂きます。
一つ 全てのものに感謝してこの食事を頂きます。
如何でしょうか。これは元はもう少し難しい言葉で書いてあるのですが、一般に分かりやすいようにしたものです。当たり前前だと思っていることが実は当たり前前ではないのだということに気付いた時に人は初めて感謝の気持ちを持つことができます。自分は果たしてこ

頭を垂れる 稲穂かな

昔からよく使われる句ですが、謙虚な気持ちで、「当たり前」であることに感謝をし、自分自身を見つめていく。そしてその気持ちを中心に施していく。子ども達には、今回の米作りを通してそういうことも学んで欲しいと思えます。
秋晴れの下、みんなでたくさんお米を学べる、楽しく爽やかな一日でした。